

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地 区	隈庄手 地 区		市長・副市長の出席 市長・副市長
日 時	平成 30 年 7 月 10 日 (火) 19:00～20:30		場 所 日隈公民館
地 区 参 加 者	高瀬日ノ隈町自治会長（地区理事）、梶原亀川町自治会長、 瀬口中釣町自治会長、貞清中ノ島町自治会長、 石松堀田町自治会長、千原亀山町自治会長、森三隈町自治会長、 田中大和町自治会長、林中央 2 丁目自治会長、 大久保中央 3 丁目自治会長		計 30 名
担 当 グ ル ー プ	リーダー	行村 総務部長	副リーダー 永瀬 地区集会所所長
	プレゼン テーター	梶原 社会教育課長 宮本 施設工務課長	連絡調整担当 朝倉 小野振興センター長
	書 記	河津 上津江振興局長、穴井 農業委員会事務局長	
	構成員	河津 上津江振興局長、穴井 農業委員会事務局長	
	その他		
	議 題	テ ー マ	説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～	梶原 社会教育課長	
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、	宮本 施設工務課長	

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(意見)

- ・この地域の防災委員は、10年来ほとんど変わらず同じ人で、高齢者が高齢者を支援して避難している。重い避難グッズを持ってない高齢者が多いので、この地域に備蓄を考えてほしい。
- ・市指定の避難所である日隈小学校に備蓄スペースがないか尋ねたら、空きスペースはないと言われた。
- ・大雨の時は、中ノ島の沈み橋が水没すると孤立してしまう。10年前浄明寺橋に木製スロープをかけてもらったが、自動車でも避難できる道がほしい。それができないなら、その木製スロープをゆるやかな勾配のスロープに変えてほしい。

(回答)

- ・避難にあたっては、まず身の安全を確保していただきたい。そのうえで、非常時は非常持ち出し物で、避難所でのいでのほしい。備蓄品は、他所に置いていても取りに行けないかもしれない。又、指定避難場所に備蓄しているが、市内全ての指定避難所に備蓄しているわけではない。

- ・今の備蓄倉庫の配置について検討したい。
- ・避難時の木製スロープについては所管課に伝えたい。

(意見)

- ・日隈小学校より日隈公民館の方が1.5mも土地が低いのに、日隈公民館が指定避難所になっている。日隈公民館でなく、日隈小学校に決めてほしい。
- ・私たちは、水害が一番怖い。避難場所は必要に応じて、2階以上の建物が使用できると良い。

(回答)

- ・日隈公民館はたしかに地震の場合は有効だが、水害の避難場所としては、あまり適当ではないかと思う。ただ、高齢者にとっては畳の部屋が必要だと思う。

(意見)

- ・自治会の防災放送について、大和町の屋外放送が聞こえにくい。
又、石井公民館の方向からも聞こえるので、スピーカーの確認をしてほしい。

(回答)

- ・屋外拡声子局は放送が聞こえないという意見をよく聞くが、これ以上、数はなかなか増やせない。屋外拡声子局の数を増やしても市全域はカバーできないと思う。
放送が聞きにくい場合は、放送内容を「確認ダイヤル」により電話で確認してほしい。又、避難勧告、避難指示はサイレンを長く鳴らすようにしている。

(質問)

- ・ダイヤルは市民に周知しているか。

(回答)

- ・市の広報でお知らせしている。何年も前から周知しているが、なかなか行き渡っていない。
周囲の方に、このダイヤルの事を教えていただけると有難い。

(意見)

- ・屋外放送は、放送のやり方として、奥（遠方）を入れて手前（近隣）を切る等、順次、地域のスピーカーのスイッチを交互に切ると、こだますることなく聞こえる。そういうやり方をしている市がある。一度試してみると良い。

(回答)

- ・確認していきたい。

(意見)

- ・亀山公園のところの国交省の可動堰だが、水害時に必ず開くか確認しておいてほしい。
去年は開けるのが遅かったと聞いている。
- ・活断層がどうなっているか。北九州からきている活断層で、東峰村まできているのがあるが日田まできていないか。
もう一つ、久留米からの活断層が日田まできていないか。調査したのか教えてほしい。

(回答)

- ・可動堰については、河川事務所といつでも連絡が取れる。動かないことはないと思うが、何かあればすぐに連絡がある。必要があれば防災無線等で連絡する。
- ・津江、大山の河川はダムがあるので水量の調整ができるが、玖珠川、九重にはダムがないので調整できない。ダムか貯水池について建設をお願いしている。
- ・活断層については、気象庁発表であるが、久留米からの活断層は詳しくはわからない。上宮からの活断層は、雨よりも地震の方が恐い。ここまでは確認できている。天瀬の五馬、出口、塚田までは活断層がきている。

(意見)

- ・子どもの頃から水の恐さを体験しないとわからない。小学生に、例えば腰までの深さなら流される等、水の恐さを体験してほしい。市の方でなんらかの方法を考えてほしい。

(回答)

- ・今年から学校単位でのコミュニティスクールを始めた。来年度は全校でやるようになっているので、防災についての講話などを行うことは可能だ。
大鶴の子どもたちは、自分たちで歩いて防災マップを作っている。学校と地域で連携して取り組んでもらいたい。

(意見)

- ・三久ラーメン付近の川は、昔農地が有り、水がはけたが、現在は雨量が50ミリ以上になったら水はけが悪くなる。消防分団の方が土嚢を持ってきてくれると有難い。

(回答)

- ・消防分団の方には、大雨の際の見回りはお願いするが、基本的に土嚢は家屋の所有者か自治会が行うものと考えてもらいたい。
- ・土嚢について、消防団にお願いできればやっていただくが、全てをお願いするのは難しい。

(意見)

- ・牟田口ゴザ屋さん和大黒屋さんの間の市道が冠水した場合、車が通ると激しく水をはねるので、その場合は自分たちで通行止めにして良いか。
- ・関連で、中野川に流れている横の井堰が有り、鯉のための水門がある。段差があり、土砂も溜まるので、水門を撤去してほしい。

(回答)

- ・市道の通行止めについては、土木課が担当になるので、協議してもらえると良い。
- ・水門については、鯉の養魚のための地元管理の水門なので、鯉を飼っている本庄町自治会との話が必要です。以前、城内川でも鯉を飼っていて、水門の開閉の支障になるので、鯉を飼わないようにとお願いした経緯がある。

(意見)

- ・中ノ島下の左岸に、以前作った蛇籠 150mが破れて清掃ができていない。構造物のやり直しをお願いしたい。

(回答)

- ・九電の堰の下の護岸ですね。きちんとした構造物にするよう国の方に伝える。

(意見)

- ・防災無線のテストは晴れの日に行っているようだが、風や雨の日など、天候が悪条件の中でした方がよいのではないか。
- ・今回の岡山の水害でも、高校生等がツイッターで「助けてください」等と発信している。発信する側、受け取る側に意思疎通がない。もっと若い人の情報をくみ取る必要があるのではないか。

(回答)

- ・防災無線のテストは、支障なく使用できるかの定期的なテストです。悪天候の中で行うと、かえって紛らわしいのではないかと思う。
- ・ツイッターの件だが、これは情報源として即時性がある。検討していきたい。

(意見)

- ・北友田3丁目川浪組の川下の1級河川を50mほど埋め立てているので、川幅が狭くなっている。大雨の時は危険なので、市で把握しておいてもらいたい。

(回答)

- ・把握しておく。

(その他の事項についての意見等)

- ・少子高齢化で親と離れて生活する若者が多い。避難情報の放送を聞き、避難する際にも若い人がいればスムーズに行く。

高齢者と同居する家庭には何か助成金を出すようなことはできないか。

(回答)

- ・同居を推進するための助成金は難しい。ただ、三世帯同居のための改築工事の補助という施策はある。
- ・今、取り組んでいるのは、中津江・上津江・大山で住民自治組織を立ち上げている。新しい自治のしくみ、新たな組織作りをしている。
- ・日田の人口は減っているが、世帯数は増えている。別居が増えているということになる。
- ・避難情報について、個人の家庭で情報を取れるシステムができないか、実験をしている。ただ、これを全家庭にとなると6億か7億円かかる。貸出か、安く販売する方法をも含めて考えている。